

埼玉県熊谷市の上越新幹線高架における ヤマコウモリ*Nyctalus aviator*の出産・哺育の初記録

○大沢啓子¹・佐藤顕義²・大沢夕志¹・勝田節子²

¹ コウモリの会 〒350-0067埼玉県川越市三光町14-1-105 E-mail : fruitbat@mwv.biglobe.ne.jp
² 有限会社アルマス 〒339-0057 埼玉県さいたま市岩槻区本町3-5-26 E-mail : almas@hb.tp1.jp

2014年6月16日撮影
腹部が膨らみ妊娠中と思われる

2014年6月19日撮影
腹部がへこみ出産後と思われる

はじめに

ヤマコウモリは、出産哺育期・越冬期ともに、通常大きな落葉樹の樹洞をねぐらとする。近年、建造物を越冬期に利用しているという断片的な報告はあるものの(吉行1990ほか欄外参考文献参照)、出産哺育場所としての利用はこれまで知られていない。

筆者らは、2011年から埼玉県内における新幹線高架のスリットをねぐらとしているヤマコウモリ、ヒナコウモリ、アブラコウモリの利用状況を継続して調査している。ヤマコウモリは通常秋から春にかけて利用しているが、出産哺育期である2012年7月19日に熊谷市内の一部区間で利用しているのを発見した。その後、2013・2014年にもヤマコウモリの出産哺育を確認したので報告する。

調査地および方法

調査地は埼玉県熊谷市内の新幹線高架の150m ほどの区間で、北側(上り側)にある高架のスリット11カ所である。地面からスリット下部までの高さは約9mである。

ヤマコウモリのねぐらとなっているスリット幅は下面は2cm ほどであるが、側面はそれよりは若干広いことがある。内部の構造は不明だが、広い部分又は水平方向の隙間があると思われるスリットもある。

調査地の新幹線高架のスリットのコウモリの利用状況を調べるため、個体数のカウントを2012年8月15日から、2014年7月30日まで計74回、日中に行った。ねぐらとして利用しているスリットの真下からストロボを使用してデジタル一眼レフカメラで撮影し、パソコン画面上で種と個体数を確認した。

また幼獣が飛翔できるようになった7月下旬から10月に捕獲調査を行った。

2014年には、6月4日から7月30日までの間に13日間、比較的利用の多かった11番スリットを中心に写真撮影及び目視・ビデオ撮影により、幼獣の成長・行動を観察した。

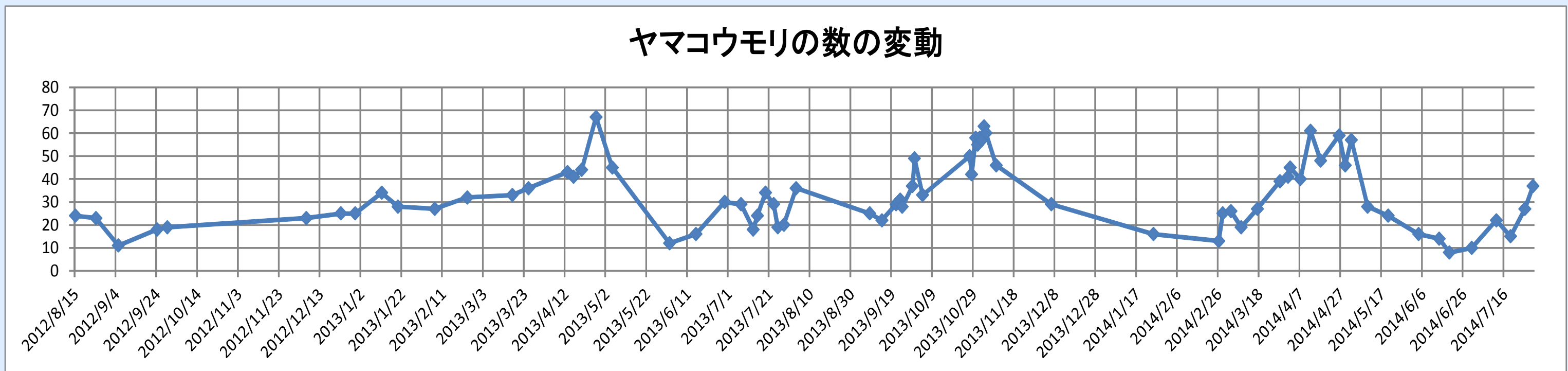


上:調査地位置図 右:出産哺育に利用されたスリットの一つ



個体数カウント

調査地におけるヤマコウモリの個体数の調査日別の合計を示す。調査区域の上越新幹線高架の主に北側のスリットに年間を通して見られる。10、11月と4、5月に個体数が増え50頭前後になる。越冬期や出産哺育期は20頭前後となる。ただし実際に出巢する数は、ねぐらで外から見られる数より多いので、スリットの外から見える部分よりも奥に、もっと生息していると思われる。



捕獲調査

2012年8月1日に授乳痕の見えるメスの成獣を確認した。2013年は7月25日から10月27日の間に計6日間行い、幼獣および授乳痕のあるメスの成獣を複数頭確認した。2014年は7月26日、30日に行い、7月26日には幼獣と授乳痕のあるメスの成獣を確認した。7月30日には授乳痕のあるメスの成獣と、オスの成獣も1頭捕獲した。

年月日	標識No.	右前腕長(mm)	性別	体重(g)	繁殖状況	捕獲方法	
2012.0801	TYA1151	61.2	♀AD	41.5	授乳痕あり	かすみ網	
2012.0801	TYA1152	63.5	♀AD	43.4	授乳痕あり	かすみ網	
2013.0723	—	48.90	♀J	19.90	骨化未了、茶	死体	
2013.0725	TYA1161	61.30	♂J	33.20	骨化未了、茶	かすみ網	追突落下
2013.0728	TYA1162	61.30	♀AD	44.20	授乳痕あり	かすみ網	
2013.0728	TYA1163	64.80	♀J	47.00	骨化未了、茶	かすみ網	
2013.0803	TYA1164	63.40	♀AD	47.30	授乳痕あり、脱毛	かすみ網	
2013.0803	TYA1163	—	♀J	46.70	骨化未了、茶	かすみ網	再捕獲
2013.0908	TYA1166	64.89	♀AD	*1	授乳期不明	かすみ網	
2013.0908	TYA1165	63.07	♂J	*1	骨化未了	かすみ網	
2013.0923	TYA1170	63.35	♀J?	43.77	骨化やや完了	かすみ網	
2013.0923	TYA1171	63.96	♀AD	47.87	授乳痕不明	かすみ網	
2013.0923	TYA1172	64.09	♂AD	47.80	精巣長径:21.46	かすみ網	
2013.0923	TYA1173	62.54	♀AD	46.33	臆口開口	かすみ網	
2013.1027	TYA1184	62.30	♂Y?	50.00	精巣長径:14.72	かすみ網	口角に白塊
2013.1027	TYA1185	61.46	♀Y?	42.47	臆口正常	かすみ網	
2013.1027	TYA1186	62.71	♀AD	47.10	臆口開口(黒い)	かすみ網	
2014.07.26	TYA1199	63.15	♀AD	42.12	授乳痕有	かすみ網	
2014.07.26	TYA1198	63.49	♀J	33.00	骨化未了	かすみ網	
2014.07.30	TYA2051	59.20	♀AD	46.70	授乳痕有	かすみ網	
2014.07.30	TYA2052	61.60	♂AD	42.60	精巣発達	かすみ網	口腔内(頬裏)白塊
2014.07.30	TYA2053	62.60	♀AD	42.40	授乳痕有	かすみ網	頭背部脱毛

*1:計測器不良

幼獣の成長と行動

2012年7月19日に同所で初めて越冬期以外にヤマコウモリを観察し、その中に幼獣と思われる暗色で茶色味の少ない個体が複数見られた。

同様の体色の個体は2013年6月29日にも確認した。

2014年においては、6月19日にスリット内で幼獣を初認した。なお、16日にも幼獣の体の一部と思われる部分が撮影できたが、確認には至らなかった。その後6月23日、30日、7月6日、12日、21日、23日、26日、30日にスリット内の写真を撮影し幼獣の成長を記録した。7月6日には盛んにスリット下の開口部で体を乗り出すようにしてはばたきの練習をしている姿が見られた。7月21日には幼獣が外に出て飛翔するのが見られた。

2014年6月19日

生まれてまもないと思われる幼獣。無毛。地肌は暗色部分が多い。目が開いているかどうかは不明。



2014年7月6日

背面に暗褐色の毛が生えてくる。



2014年7月12日

幼獣の集団。正面からも暗褐色に見える。



2014年7月23日

明るい褐色の個体は成獣。成獣は毛替わり時期のため明るい色。



2014年7月26日

明るい褐色の個体は成獣。



2014年7月30日

成獣も毛が生えそろう暗褐色味が強くなり、区別が付かなくなる。



2014年7月26日(幼獣♀捕獲時) 顔や頭部は暗褐色、背面は明るい褐色。



2012年7月19日(参考)

初めてこの場所で越冬期以外にヤマコウモリを確認した。暗色の幼獣と見られる個体が写っている。



考察

筆者らは埼玉県の上越新幹線高架スリットにおけるヤマコウモリの出産哺育を2012年から3年間にわたって確認した。ヤマコウモリの人工構造物での出産哺育は今までに報告がなく、初めての記録である。上越新幹線高架スリットには調査地以外でも春と秋にはかなりの数のヤマコウモリが集結し、一部は越冬している。もっぱら樹洞を利用すると思われるヤマコウモリの近年の人工物への利用は、もともと神社など人里にある大木の樹洞も利用するこの種の高い適応性を表していると思われる。

ヤマコウモリの出産は、調査地では6月中旬と推測される。幼獣は2週間程度で毛が生え始め、体毛は暗色で成獣メスのような茶色味はほとんどない。およそ1ヶ月で飛翔を始める。

今後の課題

ヤマコウモリは通常樹洞で出産哺育を行うため、攪乱せずに幼獣の成長を観察するのは難しいが、本調査地では真下から観察することができ、幼獣の体毛が生えていく様子や飛翔を始める時期が確認できた。来年度以降も継続して観察例を増やしていきたい。

この調査地では、数の増減はあるものの年間を通してヤマコウモリが利用しているが、越冬時期に利用している個体と出産哺育期に利用している個体が同一なのかどうかは、現在行っているバンド装着調査を今後も継続して解明していきたい。あわせて、2014年7月30日の捕獲では精巣の発達したオスの成獣が捕獲されたが、交尾行動が当地で見られるのかどうか今後観察していきたい。

また今後も調査地やその周辺の新幹線高架スリットのコウモリ利用状況を継続観察することにより、出産哺育期に高架スリットを利用するヤマコウモリが増えていくのかどうかを見ていきたい。